



航海日誌



カ 5  
6013  
P



同之月亦未晴也

一 在相親あるをいへば河幅を所こゝへて備  
 中川の名をホトと云ふ如飯も其國料理を食は  
 居る之別ウグウセニヤと云知暫村宿を歩けりハ  
 河原より立ち新の人のあり又川中へ板橋を造り  
 たり宿を中をくくえり事おつと斗ふくたふり  
 地名ナリ  
 小マウントフナイニト云ふよハあると云ふ事也  
 華盛たる銃領居り地と云ふ所ハ銃領居る  
 の後ギヤマシと云ふ所の中へ入るをいへる  
 人のいへる事也  
 ともよハホロシニト云ふ所也  
 河向の宿をみる所をいへり其國の子ハイの



じ〜〜〜午〜〜別華盛頓ワシントン 小トマカ子カールトパーリトトリトトとふ  
如く馬船と相合るよりあち所々なるヨルゲベトとて  
二行に列し一車と乗る凡そ人牛とて又小橋馬船と  
く同〜〜二行に列と凡そ人牛に於て是程を細  
く追のまると相廻らるる一輛にひと〜〜一車に馬車  
と乗るに卯ハ〜〜人牛に〜〜まるとして引  
相名とて車牛〜〜次とて追ひては馬船相接  
二後段就乗成り〜〜とて又馬車ハタケのた  
〜〜無事お給人整備とて又後段共共二後段就  
同〜〜乗ると〜〜追ひては〜〜人  
車とて馬〜〜人牛とて〜〜のり  
見物とて車牛〜〜た衣より乗る冠おと〜  
〜〜抱〜〜乳とて又〜〜の小児と我々のよと  
抱〜〜も小児歎美〜〜乳とて〜〜又ハ  
おらあやのよの年ひ来〜〜乳とて〜  
ち〜〜又〜〜車の中〜〜乳とて〜  
と〜〜布相人走〜〜乳とて〜  
車の色〜〜人〜〜乳とて〜  
〜〜女房ハ多く〜〜の二重と重〜  
〜〜樓と有〜〜人相日ハの乳とて〜  
又〜〜利望の乳とて〜〜乳とて〜  
し車〜〜身〜〜旅籠〜〜前〜〜無事  
百人〜〜乳とて〜〜旅籠〜〜日の乳と  
ち〜〜と〜〜車〜〜旅籠〜〜



洞湖ありてゆりしものにて優る百ドル位よりあるべし  
此の如きは——日本へ親子と賣人の如きの毛とありし如く  
入金之又指輪ハ男中とにあり是れ我國と平船の如  
く用ゆべき者服ハ同一く尚袖ド——と云ふ四角  
の如きと云ふも位三男の如き六尺之胸より下  
線骨より我れ灯背の如くは髪を——ポプスカリス  
と云ふものを付らぬと云ふハ旅の如きは髪を——  
カネと云ふは——を付らぬと云ふ——  
中へ引摺之折目多くは髪を——  
——と云ふものを付らぬと云ふハ旅の如きは髪を——  
ハ——と云ふものを付らぬと云ふハ旅の如きは髪を——  
用ゆべきものなり——  
是れハ——と云ふものを付らぬと云ふハ旅の如きは髪を——  
婦人ハ——と云ふものを付らぬと云ふハ旅の如きは髪を——  
——と云ふものを付らぬと云ふハ旅の如きは髪を——  
佛蘭西に於て——と云ふものを付らぬと云ふハ旅の如きは髪を——  
亦も——と云ふものを付らぬと云ふハ旅の如きは髪を——  
西日本に於て——と云ふものを付らぬと云ふハ旅の如きは髪を——  
用ゆべきものなり——  
西日本に於て——と云ふものを付らぬと云ふハ旅の如きは髪を——  
亦も——と云ふものを付らぬと云ふハ旅の如きは髪を——  
ありし如きは——と云ふものを付らぬと云ふハ旅の如きは髪を——  
湯と湯桶ハ巾之たて人等思はるる如きは——と云ふ  
ブーヒツキキと云ふは湯の如きは湯に水にありし如きは









女の病赤い緒ひも之の女をらうてふいふ名をてふ又あとののはを  
と自らたるとまればるも婚とをせらるは男ハホア女ハ十十安  
とあつたれは婚とをらるん酒ハ因りぬえをん國ヲ  
ホア下り婚とをらるん妻ハ病をせしハカ  
緒ハ湯がるらあらくあ禁のゆハ申ハ申ハ別布知人の  
荷あまの依く我もまくまを持得らるもなさ  
小例ハ河邊船ヲ目ヲ移せりエイトト十斗の  
きま子我が侍まま十斗をく酒ハいし出張  
取月の年ある荷あまの緒ハ我も感心  
く心をしてこれ女ノ腹ハ一も又侍りし  
く心の十女ハ名を白く娑也きりもとおはま至  
く心緒ハいし申ハ申ハの女およりひさら不感

おとく旅をとあねく遊びを借は是をかこス  
ふる曲をべヤアとふるを振子をととくん  
る曲べヤいねのまはおとまらん角ハいく  
人はおの道矣之痛ハ男テ女ノ侍く一年  
いしたらは子とねを知るハこれをく我も  
いしたらは申すハいしたらは申すハいしたらは申すハ  
いしたらは申すハいしたらは申すハいしたらは申すハ

同ホルの侍時

一  
かもおの人をあらいして一年ハ別王城ハいしたら  
形ありの逢申すとして身をして出張申すハ侍をとと  
いしたらは人徒上シ人徒おまり相振申すあ  
いしたらは人徒上シ人徒おまり相振申すあ

少侍より少佐へ人ありて装束等よし。たゞ樂人等も年々  
少佐を羨みし。又騎馬を御とお共率少を  
指彈もとの拾て人思く夏子。年三は時あり。十字真  
後をといを並け圖をとり。ね王城へ入るるに後  
九棒と云く。藩をく。外。藩の好むく。一。二。三。門  
河。く。何事も。白。以。之。我。未。ハ。三。圖。く。例。子。如。知。有。く  
く。さ。ふ。く。如。所。之。下。ハ。七。毛。纏。を。あ。二。面。を。極。の。子  
を。飾。り。我。の。如。所。如。右。之。指。名。斗。隔。く。廊。下。の  
格。甲。あり。斗。く。白。く。函。完。の。人。戸。あり。御。射。殿。く  
さ。い。く。い。ち。鹿。残。方。あり。元。き。中。く。一。反。を。き。あ。り。く

く。統領。く。く。に。曲。線。之。腰。を。り。け。妻。因。前。は。列。ス  
大。統。領。を。ア。レ。シ。テ。ド。と。り。く。後。を。と。ブ。カ。シ。と。ふ。年。於  
古。年。々。妻。ハ。子。を。斗。く。く。年。後。く。人。事。務。の。事。相  
と。和。め。ん。統。領。く。方。ハ。甲。子。斗。婦。く。く。方。く。人。女  
斗。之。双。も。ん。ら。せ。く。く。あ。ち。年。身。列。を。と。り。く。並  
居。た。く。く。づ。け。も。装。束。の。事。の。事。は。な。あ。り。の。た。く。く。を  
く。く。種。々。年。々。之。に。射。殿。年。く。く。人。統。領。我。の。あ  
を。あ。り。く。く。近。り。と。を。ひ。く。射。殿。の。あ。り。を。あ。り。く  
く。く。く。の。く。王。城。中。く。く。又。く。路。を。因。も。た。く。満。堂  
外。年。々。之。王。城。く。く。く。安。室。も。た。く。く。ら。り。夫。妻。の  
斗。之。因。申。別。く。御。殿。は。迫。る。を。あ。り。の。ご。う。く。未  
ノ。別。行。は。は。は。も。く。く。初。ま。を。も。倒。く。く。年。を。斗



と女を産むは徳と云ふはさしや

因縁の子雲平に別する所

一 足利入る因一 日本人の世にありては、  
一 役人許多之又昔年と云ふは、  
門と云ふ廊下の角を、  
自序子毎知り女毎て、  
平別旅幸しん一所余隔く、  
一 人ともを、  
水と云ふ、  
後院御のおと、  
王城く、

日月朝の由記

一 足利入り、  
高貴を、  
とを教を、  
法供、  
とに、  
西、  
は國中、  
平別、  
及、  
ふ、  
平、  
ら



# 同言存情

一 一 別傳傳物語と通称して王城の室の年中一別  
の御被末の別紅色とニストル宅に其の室を御多  
の二女侍を其集々踊ると傳と又酒茶午承納の  
教りいとやふと料理する後再び茶をたて  
ら御老いしのいとく 様とや色々の茶を御紙を  
代り初也とと一 存の茶子ののよとを存のいとく  
色々の茶ををとりとも茶をを能くあらぬ  
言存子絶たる申中別傳被末承納の  
短少あり侍の年暮ホラも尚國のありと人  
のよと傳とと子孫も智百人傳と申中の事  
初方存の婦人の命り存行ふとと其は英國の女  
王も傳れ一常婦人姉妹もにやとやおた  
有まやは因婦人といふとよま一 其一座に  
婦人の母は存をれとと一 後男子のれを  
ととよまといふ

# 同言存情

一 一 一 別傳傳物語と通称して王城の室の年中一別  
の御被末の別紅色とニストル宅に其の室を御多  
の二女侍を其集々踊ると傳と又酒茶午承納の  
教りいとやふと料理する後再び茶をたて  
ら御老いしのいとく 様とや色々の茶を御紙を  
代り初也とと一 存の茶子ののよとを存のいとく  
色々の茶ををとりとも茶をを能くあらぬ  
言存子絶たる申中別傳被末承納の  
短少あり侍の年暮ホラも尚國のありと人  
のよと傳とと子孫も智百人傳と申中の事  
初方存の婦人の命り存行ふとと其は英國の女  
王も傳れ一常婦人姉妹もにやとやおた  
有まやは因婦人といふとよま一 其一座に  
婦人の母は存をれとと一 後男子のれを  
ととよまといふ

ちを向かすに七ルクのなまき出く同位とがれも  
 腸く多れくくはるさの紋砂の熟と有の  
 けく成け乳のあふ布をくく包をさく腸下ハ  
 白物のみそあす投と今ぬりハ例の奥ノ投打  
 骨のふあわの踏くくくさきと冠くく作の  
 熟とあふくくくくくくくくくくくくくくく  
 まくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 布くくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 乳とくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 の中くくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 くるくくくくくくくくくくくくくくくくくく

同位己情

一 此色く甲別政府許定之宅ハ出くくくくくく  
 相色ハあふまの別くくくくくくくくくくく  
 ハ金銀細珠くくくくくくくくくくくくくく  
 印軍兵くくくくくくくくくくくくくくく  
 かくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 人後身くくくくくくくくくくくくくくく  
 入魂くくくくくくくくくくくくくくくく  
 中々代依くくくくくくくくくくくくくく  
 くくくくくくくくくくくくくくくくく  
 くくくくくくくくくくくくくくくくく  
 中々入魂くくくくくくくくくくくくく  
 中々くくくくくくくくくくくくくくく





我國の系統より成りてあるべき種々の他國大正西  
 の二階ハ市街の形を以て法法たゞの序ややく  
 序ややく中央に之を座の四角より人生の苦學成  
 格と畫されたる數々の款をとりけ又下より數千の  
 階を以て之を座の傍に婦人のまねを以て横の對を  
 為すは自らも座を以て仰りて之を以て書物のみ  
 ちりたるは情の座なる世界の圖又婦人を以て  
 後より以後の階より之を以て仰りて之を以て  
 斗とらんや。この東方座なるは之を以て仰りて之を以て  
 後の形を以て之國より之を以て仰りて之を以て  
 あり。一は下より之を以て仰りて之を以て之を以て

の形よりある座なるは之を以て仰りて之を以て  
 日本國の法則長力初格格の衣於男女年人の  
 服格格を以て之を以て仰りて之を以て之を以て  
 くあり。又各國の法則山海の音相と集む中  
 大格あり。之を以て仰りて之を以て之を以て  
 格と之を以て仰りて之を以て仰りて之を以て  
 以下大雷風雨格烈晴ぬのごとく之を以て之を以て  
 とも同の格あり。之を以て仰りて之を以て

同様の申す所の事

かつ。日曜日自前同以り市街は。各國の通用  
 たる人々多し。法則の形より之を以て之を以て  
 今この情の海と之を以て仰りて之を以て之を以て

同九の行情

辰の中別ト市中遊歩ある等々所裁せらるるの事  
像をとりまゝ方解ニ一くそく一写さしむ後ハ足角  
中も船の中よりそを任せ置る事なるの事又足角  
所ハ根板硝子紙ありぬり所ハ後ハ晴き  
所おしあ色斗一の事やあそ流しこけり所にて  
之海船然たす一價中ドルハ十トハなる申別  
天文意へは出る事別の旅言の事ハ大  
ありちりる事してフコやくとそし  
大にせらる

同十の行情

申申別ニニストル定一ツ出の管を度とるを  
メニククル一ニ言斗集り師の酒集りは  
所を一くそく一写さしむ後ハ足角  
所おしあ色斗一の事やあそ流しこけり所にて  
之海船然たす一價中ドルハ十トハなる申別  
天文意へは出る事別の旅言の事ハ大  
ありちりる事してフコやくとそし  
大にせらる

同十一の行情

強幸の中ニ舞臺をトの所高方女保一く九  
とる斗集り師の酒集りは  
所を一くそく一写さしむ後ハ足角  
所おしあ色斗一の事やあそ流しこけり所にて  
之海船然たす一價中ドルハ十トハなる申別  
天文意へは出る事別の旅言の事ハ大  
ありちりる事してフコやくとそし  
大にせらる

同十二の行情



一 亦くつたあはれあはる雨草あたるおと旅亭に宿る  
思入ハヤアア一とるく高野新を巻く一思ふこと  
ハヤ一の道へのゆいおお羽集とベヤ十とよ一羽集  
似る多岐巻とお子の別出大也

因中ぬ知雲を流雨

一 及の別つ多馬く復気は出あく山侍騎馬を好  
の國の婦人多馬く遠凡様あたりけ國の馬を  
肥之流巻とえまうとよよわく一あか集之連  
錢流馬也

因くたるは早

一 こと別流巻く早返り来るはさよのさよ流巻と  
早く女是國へ重宝十人統領より強く是を  
早くとくふ事の別儀雷雨烈く氷降るま  
さねるの強玉のこく一お入く旅亭の内  
早給る山氷を國流の風ふく相お大紅火の  
雷雨巻のさよ通く一あか一人は早

因けるは晴

一 年一別王城く山侍のつたあはる事あり  
おあとおと入早給あり人統領へおいま  
婦人あらまのつた人まうとよ一は早  
早

因たるは晴

一 けねく種多一故のさよ一も早あはる  
お慈在又まらん也

四九。未晴

夜更明如白昼。月明如女。多々。晒と。未。我。お  
よ。く。皆。暇。を。と。ぬ。は。皆。前後。を。し。り。列。を。可。む  
こ。り。情。の。深。き。手。感。は。も。の。餘。あ。り。の。如。く。一。画  
あり。華。盛。然。人。百。ち。方。の。如。敷。一。百。と。ふ

四九。甲晴

一。か。ら。華。盛。然。店。と。辨。し。木。ト。ト。一。と。向。ふ。時。に  
之。門。の。あ。り。し。車。は。多。し。九。所。年。の。一。く。燕。尾。車  
と。又。五。少。る。と。也。い。燕。尾。車。は。十。マ。深。く。回。り。く  
は。あ。り。ぬ。一。と。り。り。に。人。と。入。る。車。を。奈。ら。ぬ。と。さ  
病。を。身。又。い。ま。は。信。せ。り。車。聲。の。あ。り。く。と。く

双。輪。の。言。ふ。は。道。を。急。速。に。小。郊。に。出。る。回。り。に。他  
す。一。と。多。野。多。の。一。村。は。熱。く。く。さ。ま。昔。の。く。人。の。如。く  
あ。り。よ。さ。く。畑。と。作。車。を。疾。く。く。多。明。な。る。を  
と。り。て。も。ま。ま。糸。糸。と。多。く。極。多。の。と。る。日。に。さ。り。外  
杉。柵。も。さ。九。は。附。は。別。斗。す。一。く。マ。リ。ト。ホ。ル。ト。セ  
は。思。は。是。止。の。上。取。舞。の。之。程。六。里。之。是。の。り。燕。尾  
車。を。と。り。し。小。屋。の。方。に。一。百。と。さ。り。け。ら。ふ。は。我  
知。く。道。を。一。く。車。馬。多。く。よ。り。さ。り。さ。り。車。は。多  
し。除。く。と。道。を。行。く。市。中。の。入。り。の。り。つ。か。ぬ。お。邪。集  
と。車。の。乃。れ。さ。え。其。年。は。昔。の。斗。ケ。バ。レ。を。如。く。登。屋。情  
と。又。騎。馬。百。ち。方。の。斗。中。東。隊。と。列。防。防。の。上。年

小隊がれり、蕙るは信をたる、青あはし、くは成  
答はる、志之或は指し、きりし、似る、あ、或る、人、地、取  
十、授、多、の、箇、め、と、さ、ふ、さ、あ、き、是、又、四、の、冠、と、取  
く、揚、女、は、も、極、と、極、く、行、た、二、を、三、を、或、く、又  
さ、年、の、う、倭、ま、そ、日、の、ぬ、の、能、能、或、く、大、白、年、と、書、た  
る、能、能、と、極、く、行、ま、と、逢、布、の、た、原、は、乳、ま、ま  
ん、七、八、年、と、魏、と、と、く、山、の、こ、と、と、と、里、斗、ま、と、と  
斗、と、志、智、造、と、さ、よ、と、車、と、止、公、之、階、は、登、り、付、け、し、  
階、と、廣、大、し、く、横、木、回、望、を、向、た、る、原、あ、後、  
く、横、ま、か、さ、又、中、へ、通、り、た、原、一、段、さ、く、く、と、  
あ、よ、り、た、ら、む、を、飾、り、た、ね、の、甲、の、女、お、る、人、  
中央、よ、り、と、志、有、我、知、く、は、け、た、ふ、と、登、る、下、の、原、と、お  
く、と、兵、卒、二、百、人、案、ゲ、べ、ん、地、お、く、洞、海、と、く、後、  
又、三、年、は、よ、ふ、く、行、ま、の、甲、利、地、能、知、く、志、と、あ、志、  
り、二、三、の、能、之、志、と、さ、え、日、の、ぬ、の、た、原、を、と、と、と、と、  
か、た、地、を、と、と、と、と、大、原、の、ま、極、を、と、と、あ、百、人、  
は、能、多、の、一、段、一、つ、免、と、あ、る、の、車、之、川、の、と、地、中、の、  
ポン、プ、を、と、と、く、歩、隊、揚、と、と、と、と、同、向、か、り、ま、る、よ、り、水、  
原、を、年、と、た、雨、の、ご、と、と、た、ね、の、以、と、く、原、を、は、一、段、  
同、年、一、く、敢、死、と、階、を、は、二、三、年、に、あ、ふ、む、も、年、  
と、た、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、  
兵、卒、六、百、人、早、も、洞、海、を、と、と、と、と、お、く、と、と、と、と、と、  
と、と、と、一、通、り、は、我、國、は、能、知、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

多秋子家系の形に或る横文字亦をあるは、  
 一、横文字を「日本」の「日」と「本」とを  
 左の「子」を「し」と「ま」とを「ま」と  
 左の「く」と「く」とを「く」と「く」と  
 左の「く」と「く」とを「く」と「く」と  
 左の「く」と「く」とを「く」と「く」と  
 左の「く」と「く」とを「く」と「く」と  
 左の「く」と「く」とを「く」と「く」と

同所の町並

一、一、別ルトソー旅館を出て一、一、車を引く  
 舟車の如くあり。此地市井は人の住む  
 舟の如くあり。舟を引く舟車は舟の  
 舟を引く舟車は舟の舟を引く舟車は舟の  
 舟を引く舟車は舟の舟を引く舟車は舟の  
 舟を引く舟車は舟の舟を引く舟車は舟の  
 舟を引く舟車は舟の舟を引く舟車は舟の  
 舟を引く舟車は舟の舟を引く舟車は舟の  
 舟を引く舟車は舟の舟を引く舟車は舟の

頼子く〜橋を渡りてのたれと悪き氣におあり  
ちりも蒸き氣車も入り日のみのおたれをさすは  
文ありけおの上たのりか〜〜結乃ありあり火  
輪車をさす右の船の上まの〜結乃〜あせ海に  
着てちりも船のまをさす間横十間斗〜〜作り  
四角なり〜降よりおかけ橋を〜平より百米  
の階滅〜絶右の船中〜悪き氣車もあせ海に又  
ゆき〜拾里斗〜〜大村をさす〜ウエ〜  
凡く〜なるを〜ハル〜カラス〜是近〜岡松林を  
多〜〜知のま〜麦〜赤〜〜結乃〜車中〜  
半飯〜入〜お〜い〜他〜斗〜ト〜ト〜ヤ〜近〜車〜八里〜

あの中刻〜斗〜ト〜ト〜ヤ〜色〜始のぶ〜ト〜ト〜ヨリ〜是近の里  
あ九拾九里〜市中の入り〜拾里斗〜〜悪き氣  
車揚〜あ〜い〜知〜車馬〜あ〜結乃の土平〜  
お〜凡〜斗〜騎馬〜白丑〜お〜斗〜列と  
正〜〜固〜〜冠裝〜又の途〜車〜の右  
〜市〜結乃〜二人〜斗〜刀量有〜結乃と  
〜あ〜い〜す〜地〜の〜あ〜の〜  
〜あ〜斗〜斗〜斗〜斗〜我〜日本國の朋友の  
〜あ〜と〜加〜〜徳あり〜是支那人の書〜市  
中〜入り〜結乃〜あ〜の〜あ〜盛〜火〜  
〜書〜〜あ〜〜あ〜〜あ〜〜あ〜  
の〜書〜〜あ〜〜あ〜〜あ〜〜あ〜



七八階の上下りり日本人を扱き又熊なきことの自  
 の城をとうり是を心く扱き四八人舞を舞へし  
 舞をとうり是を心く扱き相く有又四方より人  
 日本人の志年の中へ成子等を扱きまむあて  
 扱きあひ詳々なこと我國多礼のふおのごとく申列  
 旅籠へま。門前より白女とあてた。鞍馬と言人共率  
 二百人。遊請もよむ利愛國にあのく右伝おまの  
 夢問をとりした。年うまてあてしとらふ。旅籠す  
 新完ち。い。く。あて。年。あて。月。ま。り。あ。他。の。ね  
 へ。大。け。り。に。に。に。同。年。へ

同本なるは時

一 市井に於ては未だ人形をまじ中。馬年の乃をを  
 向ふあて。年。の。因。中。ま。あ。く。い。あ。端。ま。ま。い。あ。い。あ。  
 性。あ。い。く。新。新。い。く。い。あ。く。我。あ。の。あ。い。あ。  
 ま。く。い。あ。く。湯。敷。を。あ。い。あ。ま。く。あ。い。あ。ま。く。い。あ。ま。く。  
 を。あ。い。あ。ま。く。あ。い。あ。ま。く。あ。い。あ。ま。く。あ。い。あ。ま。く。  
 あ。い。あ。ま。く。あ。い。あ。ま。く。あ。い。あ。ま。く。あ。い。あ。ま。く。  
 し。あ。い。あ。ま。く。あ。い。あ。ま。く。あ。い。あ。ま。く。あ。い。あ。ま。く。  
 ち。あ。い。あ。ま。く。あ。い。あ。ま。く。あ。い。あ。ま。く。あ。い。あ。ま。く。

同本なるは時

一 知り別るは主人のより大層おまむあて。あ。い。あ。ま。く。あ。い。あ。ま。く。  
 あ。い。あ。ま。く。あ。い。あ。ま。く。あ。い。あ。ま。く。あ。い。あ。ま。く。あ。い。あ。ま。く。

少年をとりて其の又抱かす事ハ成ほど十年の事  
以て守りて女是を引く少年をたてしはあつた地  
おけ知平山より廣くあはる川をくまへて  
かく我國の形もふし似たり酒草もふし似たり  
又想のちよふもふし似たり市井水乃の岸も  
ありしあり水車のはげも山と水とあはれ  
市井ハ水乃もふし似たり其の極大製法  
所ハふし似たり水乃の岸もふし似たり  
ふし似たり水乃の岸もふし似たり

同分習子晴

少年をとりて其の又抱かす事ハ成ほど十年の事  
以て守りて女是を引く少年をたてしはあつた地  
おけ知平山より廣くあはる川をくまへて  
かく我國の形もふし似たり酒草もふし似たり  
又想のちよふもふし似たり市井水乃の岸も  
ありしあり水車のはげも山と水とあはれ  
市井ハ水乃もふし似たり其の極大製法  
所ハふし似たり水乃の岸もふし似たり  
ふし似たり水乃の岸もふし似たり



うら子なる日ごとく年別に向致い旅亭より力婦  
あ年齢を多し一々形服をことごとく力婦  
しりけ婦族のた鼎を編む一々精く富より力  
りげと田の之り力に致れまづ一は國の老る  
よに力多し一又此地少見たり多ふても老の少見  
りとも富を多給の勢をより我國の形と年別  
とからぬ

### 因亦を知晴

一 年別より市井に於てある紙細きと力婦  
ありまじりて人の多きを多給の形極くありて  
んまじりて人の多きを多給の形極くありて  
まじりて人の多きを多給の形極くありて

又此れをふらりてと力婦  
ち此の之後<sup>二階</sup>ありて二階より冠あり是れ極  
くあり酒多しありて池をくるとも後けり  
三つ又追ひて錦結を掲げり高きなり  
ありけりありてと力婦ありて池をくるとも後けり  
くありありと力婦ありて二階より冠あり是れ極  
別より極みの繪をとりて力婦ありて  
人方を多用しを極別初より力婦ありて  
二階より冠ありて池をくるとも後けり  
けりありてと力婦ありて池をくるとも後けり  
くありありと力婦ありて二階より冠あり是れ極  
る者ありてと力婦ありて池をくるとも後けり







律... 葛畑... 旅館... 七階... 中... 井... 中...

因方九〇己晴

地... 人... 身... 主... の... 男... 一... なし...

五月朔日晴

午... 年... 一... 高... ソ... 於...



ハ旅をうらむとロロウエー。主名メトロボーレテニと云

因る事情

一 已別雨雷のあつた市の中を接ぎつたお茶を  
其長をうらむ又心よのあつた人の其長もあり

因る事情

午後雷初れり他の其長とつたお茶は是別  
相言ぬりーらん物移集あつた市あり日本  
人少くあつた其長をうらむ人の其長あり  
と語つた是日少く行つたお茶の美人あり  
所又ー旅の道とつたお茶の美人あり  
高橋の道とつたお茶の美人あり

因る事情

一 已別花をうらむ其長ありはるよハ旅をうらむ  
十百許と云ふ華山の城とつたお茶の美人あり  
白鳥ハるよに旅をうらむ湖とつたお茶の美人あり  
一 月多言物とつたお茶の美人あり  
一 月多言物とつたお茶の美人あり  
一 月多言物とつたお茶の美人あり

因る事情

一 雨別と云ふ旅の道とつたお茶の美人あり

四月より五月の月申の油のふのどく〜あとのき  
スルも又そののゆをとりつる〜航月のごく  
〜〜〜〜〜の早をとつてきたに極の  
形あり

因らるま時

海別市申と存安とつんを物と成て交る箱  
は数千の無あり〜〜〜牛〜と  
角力〜〜〜或人〜〜〜外虎旗  
〜〜〜お〜人の志をの〜

因らる子時

かの日曜日を市申高安を付とる由所  
是の村もその〜〜人取とを自と人あ合  
此万ドルを〜〜〜

因らる時

からの<sup>ゲイ</sup>ン<sup>ギ</sup>ル〜ちり人〜人編と  
信〜と〜事〜

因らる時

からの〜〜〜年別と年日本因後  
本〜〜〜の〜〜〜病  
〜〜〜の〜〜〜時日  
日本の急物多あり〜〜時日  
本因港の因系とら〜〜昇  
額多あり〜酒系を〜〜又二定  
の種本〜〜〜知  
〜〜〜の〜〜〜離れ  
〜〜〜〜〜海

養育にても取入らるるものごとくあるは裁奪の心  
根を以て子供にして〜 裁奪の子たるは根を以て  
根を以て〜 裁奪の子たるは根を以て  
裁奪の子たるは根を以て〜 裁奪の子たるは根を以て

四十七日卯時

一 年別市中に於て遊藝あるは然るべく是れ人々の  
心を悦ばしめ給ふは誠に宜しと云ふべし然れども  
是れは人心を惑はしめ給ふは誠に可成り可成り  
事あるべし

四十八日辰時

一 朝より市中を遊ぶは或は此れは利國益國と云ふ  
も一段固中にして子孫ありて之を承継するべく  
為あり又遊藝あるは人心を悦ばしめ給ふは  
誠に可成り可成り然れども是れ人心を惑はしめ  
給ふは誠に可成り可成り然れども是れ人心を  
惑はしめ給ふは誠に可成り可成り然れども是れ  
人心を惑はしめ給ふは誠に可成り可成り然れ  
ども是れ人心を惑はしめ給ふは誠に可成り  
可成り然れども是れ人心を惑はしめ給ふは  
誠に可成り可成り然れども是れ人心を惑は  
しめ給ふは誠に可成り可成り然れども是れ  
人心を惑はしめ給ふは誠に可成り可成り然  
れども是れ人心を惑はしめ給ふは誠に可成  
り可成り然れども是れ人心を惑はしめ給ふ  
は誠に可成り可成り然れども是れ人心を惑  
はしめ給ふは誠に可成り可成り然れども是  
れ人心を惑はしめ給ふは誠に可成り可成り

南の皇幸を望むるに似たりと云ふべし

同々なる已晴

一 己の別子ウエルグ族を以て門を閉りて三年を待し  
たりと云ふべし海を以て主とする川を以て船  
を以て主とする軍艦はチヤガラ一軍は  
は船を以て主とする軍艦の煙を以て主とする  
を以て煙を以て主とする軍艦はチヤガラ一軍は  
一 同の力をもて主とする軍艦はチヤガラ一軍は  
略すべからざるに似たりと云ふべし海を以て主とする川を以て船  
を以て主とする軍艦はチヤガラ一軍は  
千のち船を以て主とする軍艦はチヤガラ一軍は  
ゲートにスミルと云ふは英の言にチヤガラ一軍は  
チヤガラ一軍は英の言にチヤガラ一軍は  
世界第一のち船を以て主とする軍艦はチヤガラ一軍は  
輔く洋國の流を以て主とする軍艦はチヤガラ一軍は

同々なる已晴

一 己の別子ウエルグ族を以て門を閉りて三年を待し  
たりと云ふべし海を以て主とする川を以て船  
を以て主とする軍艦はチヤガラ一軍は  
は船を以て主とする軍艦の煙を以て主とする  
を以て煙を以て主とする軍艦はチヤガラ一軍は  
一 同の力をもて主とする軍艦はチヤガラ一軍は  
略すべからざるに似たりと云ふべし海を以て主とする川を以て船  
を以て主とする軍艦はチヤガラ一軍は  
千のち船を以て主とする軍艦はチヤガラ一軍は  
ゲートにスミルと云ふは英の言にチヤガラ一軍は  
チヤガラ一軍は英の言にチヤガラ一軍は  
世界第一のち船を以て主とする軍艦はチヤガラ一軍は  
輔く洋國の流を以て主とする軍艦はチヤガラ一軍は

